

# 理想の母親

中村 五六

人と生れて母親を持たぬものはないし、母親ある以上は之を敬愛せぬものは先づなからうから、現在已が母親に不服を云ふものは世間廣しと雖も稀なことに違ひないが併し理想の家庭と云ふ所から考へると随分文句の並べ様がないとも限るまいと思ふ。然らば汝の所謂理想の母親とは如何なるぞと問はれたら我輩は先づ第一に云はん曰く能く婦人たるの天職を理解し居るの人と、如何に學問に秀ひで實際に長けて居ると云つても母としての資格は未だ充分とは云へぬ。母としての理想は婦人の天職を理解することによりて、始めて成立す可きもので、是を理解せぬと云ふ以上は、逆も小供と云ふものに對する充分な注意は出來まいと思ふ第二には子供に對する愛情の濃かならんことである。無論誰だつて己れの腹を痛めた子どもに對し

八

て、愛情を注ぐことの出來ないなどと云ふことは無い筈であるが併し随分中には可なり冷淡に過すものもある様である。一体教育なるものは其物が既に愛情の塊なるべき筈のもので教育者が被教育者を可憐と感じ之を愛撫する所に感化誘導の手段を見出し得るものであるから愛情は一般教育者に必要になると同時に母親には最も著しく發顯して居つて欲しいものである。實際娘時代にあれの是れのと只もう流行を逐ふて居たものでも母となつてからは衣服髪飾りも頓と氣が付かず眠むい夜の目も子供の爲めには瞬もしないと云ふ程になるのが母として當然の人情で是程に思ふて呉れる母親がなくなれば可憐な子供は幸福に育ちがたいものである。

第三には母親の身体が健康平靜で且快活ならんこととが願はしい。婦人は一体にか弱い故か動もすると頭痛、腹痛、眩暈など起して病臥し易いものであるが是が子供には極めて不愉快に感じられるも

のである。夫れが若し長引くか又は屢々であること云ふ日には尙更子供の爲めに不仕合せなことである。尤も母親も冷淡で子供も冷淡であると云ふ場合には大した事でもなからうが母子の關係が理想的に密着して居ると云ふ家庭程母親の病氣が子供の腦を刺戟するものである。假令又病臥する程な重体でなくとも氣分が勝れないで常に鬱して居るか或は所謂氣嫌買で或時は非常に氣嫌よく或は非常に悪いと云ふ様な事があつたりなどするのは幼児教育上最も悪いことである。又それ程の事ではないけれども人に因ると何時も快活の風がないと云ふ様なことがあるが、是も幼児教育には大不都合である。幼児の生活と快活とは切り放すことの出来ぬもので若し幼児の活動から快活なる部分を取つてしまつたら後は全く零となる可き筈のものです。故に之を保護、誘導して行く人は努めても快活しなければならぬものである。況んや母親に於てをやです。

以上は理想の母親が有する資質の一端を述べたので是で盡きて居るではないが此三個の要求は確かに根本的なものであると思ふ。餘は他日書くところしよう。

●本年教育豫言 谷本博士 明治四十年の教育界には、中學問題が盛んになるでしよう、制度の問題ではなくて内容の研究がです、小學問題は一段落で、盛んに研究の起るは中學でありましよう、中學問題の外には、女子教育と幼稚園であります、女子教育の必要なる事は既に研究が始められて仕舞つて、是から女子教育の施設に就ての研究が始まらうと云ふのです、尙幼稚園の保姆及保育法は、是迄閑却せられてゐたのを、彌々研究せられる事となるであらうと思はれる、教育界自然の傾向は然らざるを得ませぬ、自分の研究も亦時代に伴つて其歩を進めて居る、既に前年中學問題に就ては、理論的研究を終へまして、或は其内純粹の學理的の部分幾らかを抜にして、其餘を世に公にするかも知れませぬ、又可下現在の全國中學に就て、諸種方面凡十四五種よりの觀察材料を蒐集しました、二三年の内には十分に取纏めて組織的にすべし積ります。